

医療安全だより

発行2013年 11月

VoL. 20

1、臨床検査技師の業務とは？

当院での臨床検査技師は、主に、採血室、生理検査室、検体検査室において、検査業務をしています。

検査業務としては、採血、心電図検査、超音波検査、肺機能検査、脈波検査、血液検査、尿検査、便検査、細菌検査、病理検査などその他、人間ドック室、治験管理室、地域連携室などで、業務しています。



2、安全な採血を行なうために注意していることは？

患者様からスタッフに申し出ていただきたいこと、または、採血後の注意事項は、わかりやすいように貼ってあります。



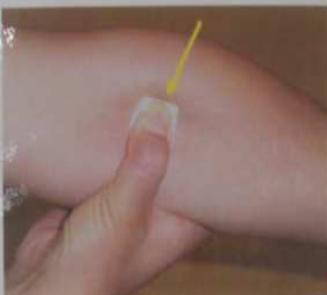
★乳癌術後・透析中の患者様へ

乳がんの手術した側の腕、透析用シャント側の腕では採血できません。

Qなぜでしょう？

- 1、乳がんの手術後はリンパ浮腫（むくみ）や皮下組織の炎症をおこしやすいため
- 2、透析用シャント側で採血すると、シャントの流れが悪くなるため

採血が終わったら



3分ほど強く穿刺部を圧迫してください!!

★採血終了後3分ほど強く穿刺部を圧迫

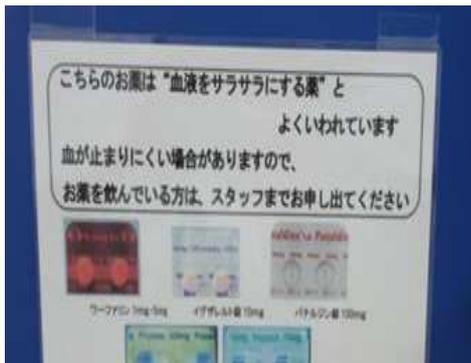
してください

止血には、最低3～5分必要です。

また採血した側の腕で、重いものを持たない、血圧測定をしないなどのお願いしています。

Qなぜでしょう？

止血したと思っても、再び出血し洋服を汚したり、内出血を起こし採血付近の広い範囲にあざが残ってしまうことがあるからです。

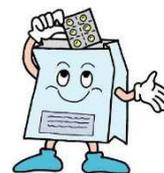


★こちらのお薬を飲んでいる方は・・・

抗凝固剤・抗血小板剤の薬を飲んでいる方は、申し出てください。お薬手帳をお持ち頂くとこちらで確認することができます。

Qなぜでしょう？

止血に時間のかかる場合があるので、長めに止血していただくためです。



★その他いくつか確認させていただくことがあります

1、患者様本人に、フルネームと誕生日を言って頂くことにより間違い防止をしています



2、また、クリニック採血室では、採血管と患者様の整理番号との認証確認を行っています。

一致すれば○、不一致であれば×と一目でわかるシステムを導入しています。



3、採血を行なってはいけない部位の確認をしています

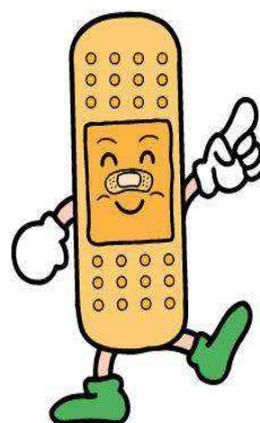
4、過去の採血で気分が悪くなったことはありませんか？

* 過去の経験を確認することにより、迅速に対応できるようにしています

5、消毒用アルコールとテープアレルギーの有無の確認により対応しています

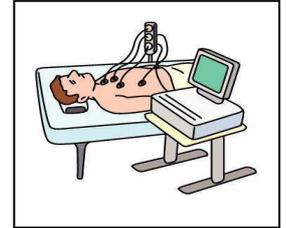
* アレルギーの有無によって消毒薬やテープの種類を換えています。

6、穿刺時の激痛、手先のしびれを確認することにより安全な採血を心がけています



3、生理検査室って何をするとところ？

生理検査とは、患者様に直接機械をあてて行う検査の事です。
心電図や超音波検査を始め12種類(40項目)以上の検査を、
いろいろな機器で検査します。



4、生理検査室の医療安全とは？

『生理検査室のモットーは～正確・迅速・安全～』

検査機器が、**正確**に検査することを確認しています。
検査結果を迅速に届け、緊急性のある場合は**迅速**な対応を心がけています。
患者様に直接機器が触れて行う検査のため、**安全**性を重視しています。



★安全のために次の患者様は、お申し出ください

- * **ペースメーカーを使用している人**
⇒筋電図検査・体液量検査は、検査できません。
- * **透析を行なっている患者様**
⇒ABI検査は、シャント側は検査できません
- * **結核疑いのある患者様**
⇒呼吸機能検査は行いません。他の方への感染防止のためです。
- * **足腰の悪い方**
⇒負荷心電図検査・トレッドミル検査の際にはお申し出ください。
患者様の状況によっては途中までの検査とする場合や、中止とさせていただくこともあります。
- * **貼り付けテープやアルコールにかぶれる方**
⇒24時間（ホルター）心電図検査の際にはお申し出ください。
刺激の少ないテープにしたり、皮膚へあたる面積を少なくするように貼り方を工夫いたします

～何か不安な点や、不明な点がございましたら、

お気軽にスタッフまでお尋ねください～

